

コイ全雌魚作出技術開発研究 ―コイ全雌魚種苗生産試験―

福島県内水面水産試験場 生産技術部
内水面水産試験場研究報告書第6号

1 部門名

水産業一種苗研究(開発)ーバイテク、コイ
分類コード 19-06-27620000

2 担当者

實松敦之

3 要旨

コイの雌は雄に比べ成長が良く飼料効率が高いとされている。そのため、2000年度よりコイ全雌魚の作出技術開発研究に取りかかり、2003年度より全雌種苗を出荷するに至った。そこで、2004年度のコイ全雌魚種苗の生産試験の概要を報告する。

- (1) 親魚は、当場の雌のコイ2尾と、2002年に作出した性転換雄2尾を用いた。
- (2) 雌を加温により催熟し、5月28日に、搾出法で採卵し、乾導法で受精させた。
- (3) 浮上仔魚の飼育池は、15m×20m、水深1mのRC池2面と、5m×40m、水深1.2mのRC池1面の計3面とした。6月3日に各池に約23万尾ずつの浮上仔魚を放養した。摂餌を確認しながら適宜、配合飼料を給餌し、7月20日に取り上げた。
- (4) 通常魚の採卵方法と同様に、性転換雄と雌をキンランを設置した産網内で昇温により催熟して産卵させたところ、性転換雄が斃死し、雌は途中で産卵を止めた。このことから、搾出法で採卵する方法が適していると考えられた。
- (5) 取り上げ結果は、単位収量は0.39～0.71kg/m²、生残率は72.1～102.1%、飼料効率は80～115%、取り上げ時の平均体重は0.56～0.71gであった。
- (6) コイの稚魚(青仔)は通常、1g以上で流通しており、取り上げ時の平均体重を1g以上に育成するには、500尾/m²程度が最適な放養尾数であったと考えられた。
- (7) 2004年度は61.5万尾の種苗を出荷した。種苗生産に供せる性転換雄を常時20尾程度継代保有することで、数10万尾のコイ全雌魚種苗を供給することが可能とみられる。

4 その他の資料等

なし